

## 「奈良巡りの会」報告文 ①

平成 29 年 6 月 11 日曜日、初めての「奈良巡りの会」が開催されました。

奈良の名所旧跡などを巡り、歴史や文化に触れながら参加者相互の親睦を図ろうという企画で、今回は、総勢 12 名で近鉄奈良駅の出発し、元興寺、十輪院、新薬師寺、頭塔などを巡って、再び近鉄奈良駅に戻ってくるという行程でした。

天気予報では☂の印が付きましたが、平越真澄名幹事お心入れの「てるてる坊主」の功德により、傘を使わずにすみました。直射日光がないため暑くもなく、快適に歩くことができました。

事前の下見から、寺院との交渉、昼食の段取りまで入念にご準備いただいたお陰で、円滑かつ充実した時間を過ごすことができました。

また、懇切丁寧な資料もご用意いただき、寺院等の沿革や歴史は言うまでもなく、み仏のご由緒からサンスクリット語(いわゆる梵字)まで勉強することができました。

本当にありがとうございます。

さらに道中は、歴史文化に関する蘊蓄から背筋が寒くなるほどのダジャレまで、様々な会話を楽しみながら参加者相互の親睦を深められたと思います。

歴史や文化に興味のある方、日頃運動不足の方、是非次回の「奈良巡りの会」にご参加ください。

訪れた寺院等については、ガイドブックや研究書もあるので、簡潔に記すにとどめますが、改めて街中に散在する奈良の歴史の奥深さに驚嘆するばかりです。

元興寺は、飛鳥時代の法興寺(現在の飛鳥寺)が平城京遷都とともに移されたもので、その寺域は「平城の飛鳥(ならのあすか)」と呼ばれました。時の流れの中で寺域は小さくなりましたが、盂蘭盆会や地藏会など庶民の信仰を集め、ならまちの中で法灯を守り続けてきました。国宝や重要文化財多数を擁し、世界遺産「古都奈良の文化財」に指定されています。

十輪院は、もともと元興寺の寺域の一部で、沿革は詳らかではありませんが、鎌倉時代に石造地藏菩薩が信仰され、それを護るように本堂が建てられました。この本堂も国宝です。ご本尊の地藏菩薩を中心に諸仏、諸天が配置され、往時の仏教の世界観や人々の信仰を偲ぶことができます。

新薬師寺のご本尊はもちろん薬師如来ですが、入江泰吉の写真により十二神将像が有名です。また、近年本堂の東側にステンドグラスが嵌め込まれたことにより、まるでカトリック教会のような雰囲気もあって、ありがたさを増しています。

特筆すべきは、「景清地藏尊」の修復中にその胎内から発見された「おたま地藏尊」で、これは自分の眼で見なければ感動が伝わりません。信仰というよりもむしろ情念に近い気がします。このようなみ仏を見せていただけるのも「奈良巡りの会」のご縁であろうと思います。

頭塔は、東大寺の実忠和尚が建立した仏塔と言われていますが、まるでピラミッドのような佇まいで、なにやら異世界、異文明の存在を想像してしまいます。

なお、昼食は新薬師寺近くの「ろくさろん」でいただきました。折から「ミュージックフェストなら」の会場となっていたため、奥の座敷を使わせていただいたのですが、庭を愛でながらくつろぐことができました。

瑜伽神社を経て、締めは、春日大社参道のお旅所近くにあるムクロジを鈴木先輩の案内で観察しました。春日山原始林の末端に位置する巨樹ですが、空洞になった幹から数本の竹が生えており、少し滑稽で切ない感じがします。

ちなみに、ムクロジの種子は、羽根突きの羽根の重りや数珠、さらには石鹼としても利用されました。

筆舌に尽くしがたい面白さは、実際に参加してみないとわかりません。

奈良三田会の皆様、知的好奇心を満たすため、健康のため、また親睦を深めるため、歴史の本を携えて奈良を歩いてみませんか。

(文責 松村憲一 昭和 62 年経済学部卒)